Title: 7月1週号 宮城.eca Page: 1 Date: 2017/06/29 Thu 16:00:08

おらほの輝く NOSAI関係者

農家とNOSAIをつなぎ 農業を次世代につなげる

Part 2

「地域の農業者とNOSAIをつなぐ」重要なパイプ役を担っている総代や共済部長、損害評価会委員、損害評価員、女性の会。NOSAI事業は、多くの基礎組織者に支えられて運営されている。NOSAIの基礎組織者は、地域でも中心的な立場で活躍している。豊かな宮城の農業を切り拓く代表者の、NOSAIとの関わりに注目した。

みやぎ版

購読申込先

NOSAI宮城
仙台市青葉区上杉1丁目8番地10号
〒980－0011
電話022(225)6701
http://www.nosaimiyagi.or.jp/

NOSAI制度70周年キャッチフレーズ
備えの種をまこう。

栗原市 鈴木 一征さん

地域の支えとなる

総代、共済部長

【栗原市】栗原市築館の鈴木一征さん(74)は、共済部長を22年務めるほか、2012（平成24）年から総代を兼任している。

「災害が起きたとき、NOSAIの仕事に携わり地域の支えになることができて良かった」と鈴木さん。1993(平成5)年の大冷害、岩手宮城内陸地震、東日本大震災、近年頻発している集中豪雨、また、近隣で大火災が起きたときにNOSAIは支えとなる安心感を与え、農家の暮らしを守る存在で、自分も少しでもその力になりたいという。

「後継者を育成し、結いの精神をつないでいきたい」と鈴木さん

鈴木さんは、水稲4・5㌶作付けするほか、転作田45㌃でズッキーニ、18㌃でキクを栽培している。ズッキーニは、市や関係機関が特産化を目指して普及。鈴木さんも稲作を経営の主軸に置きながら、3年前から栽培に力を入れて地域農業の活性化に助力している。「地域に根付かせブランド化することは一人の力ではできない。NOSAIが組織体制を強化し、良い方向に導いていくことも人と人のつながりや助け合いの気持ちがあってこそ。相互扶助の精神を失わないでほしい」と話す。

鈴木さんは「共済部長として農家の声を直接聞き、NOSAIにつないできた。これからは後継者の育成にも力を入れ、次世代につないでいけるよう取り組んでいきたい」と話す。

▽共済部長歴22年、総代歴6年（及川愛）

登米市 池田 和子さん

女性の力を生かす

女性の会役員

【登米市】「広報紙を配布しながら、地域の方々とコミュニケーションをとることが楽しい」と話す、登米市の池田和子さん(62)。2006（平成18）年に女性の会役員に就任し会長を務め、女性の力を生かした地域活動や組織活動をまとめている。

池田さん方は水稲1・5㌶作付けるほか、登米市グリーンツーリズム推進協議会の会員としてファームステイ（農業体験型民泊）を年4～5回行っている。池田さんは「東京や群馬など関東方面の学生や、県内では岩沼市の岩沼中学校の生徒さんを受け入れ、子どもたちとの交流を楽しみにしている」と話す。

「モットーは『一日一日を活き活きと精いっぱい生きよう』で、パークゴルフ、卓球、インディカ、笑いヨガなどを楽しんでいる」と池田さん。日々活動的に過ごし「人との交流は情報交換の場で新たなコミュニティーを生む」と話す。

「NOSAIの女性の会も貴重なコミュニティー」と池田さん。就任当時は県内全域で多岐にわたる活動が多かったが、現在は各支所単位での活動にとどまり規模も縮小されている。

「女性の力を発揮したい」と池田さん

池田さんは「制度の普及推進というものの活動は制限され、NOSAIの役割を認識していない女性も多く、NOSAI自らがPRする機会をなくしている」と危惧する。「農業や農政がどのように変化していくか分からないが、女性の力を最大限に発揮したい」と話す。

▽女性の会歴11年（浅野ゆ）

大崎市三本木 大森 光成さん

制度普及を後押し

総代、共済部長

【大崎市三本木】大崎市三本木の大森光成さん(62)は、共済部長を16年務めるほか、2012（平成24）年から総代を兼任している。

「自分の財産は自分で守る」を念頭に置き、万一の災害に備えてNOSAIへの加入を勧めるほか、制度の普及に努めている。「個人情報を取り扱うため、書類の取り扱いなどに注意を払っている。役職に就いたことでNOSAI制度や保険の仕組み、手続きの仕方などの知識が深まり良かった」と話す。

大森さんは、水稲21㌶、牧草4㌶を作付けするほか、伊場野生産組合長として大豆7・7㌶を手掛けている。大森さんは「主食用米を15㌶作付けする中で地力を高めるために春先の施肥に工夫を凝らし、高温期を乗り切ることができる稲体を作って収量増、品質向上を目指している」と話す。

「規模を拡大し、法人化したい」と大森さん。収入保険制度の導入が決定し、NOSAIには従来以上の対応を期待。NOSAI制度と収入保険制度をしっかり普及し、農家経営を下支えしてほしいという。

大森さんは「長年NOSAIに携わり、多くのことを得てきた。地域につないでいき、今後も地域のために貢献していきたい」と話す。

▽共済部長歴16年、総代歴6年（大友）

「自分の財産を守るため、万一の災害に備えNOSAI加入を強く勧めていきたい」と大森さん

石巻市 佐々木 宏さん

農家のために奔走

損害評価員

【石巻市】「自然災害などで被害があった場合に損害評価にあたる役職で共済金の支払いに直接関わるため、公平な目で適正に評価するよう心掛けている」と話す、石巻市の佐々木宏さん(65)。これまでも共済部長や総代、損害評価員を務めていたが、2011（平成23）年から改めて損害評価員に就き、NOSAIと農家をつなぐ役割を担っている。

「地域のために力になることがうれしい」と佐々木さん

佐々木さんは、水稲6㌶を作付けするほか、地域で立ち上げた西谷地営農組合の組合長として大豆14㌶ほどを手掛けている。佐々木さんは「収量を増やすことはもちろん品質向上にも細心の注意を払っている」と話す。

「1993（平成5）年の大冷害のときは共済部長と損害評価員を兼務しており、2週間にわたって悉皆調査をした」と佐々木さん。「部長になってすぐの大被害で大変な思いもしたが、同時に非常にやりがいを感じた。自分のことよりも農家のみなさんのためになっていると思うと、この役職に就けて良かった」と話す。

佐々木さんは「NOSAI団体は、これから大きく変革していく。今まで以上に組合員の声を聞くべきだ。それら要望にしっかり応えられるよう、われわれとのつながりを強く持ち、もっと深く関係を築いていかなければならないと思う」と話す。

▽損害評価員歴6年（推野）